

ISBRA KANTO

公益社団法人 日本農芸化学会

2017年度若手発案企画②

(報告者: 平沢 敬)

第16回微生物研究会は、11月18日(土)に東京工業大学すずかけ台キャンパスにて、「微生物の多様な生き様にせまる」をメインテーマとし、5名の研究者による講演と学生・若手研究者によるポスター発表を行いました。

* 微生物研究会は、主に首都圏の微生物研究者の交流の場として、年に1回のペースで続けている研究集会です (<http://www.res.titech.ac.jp/~biores/cn20/BIKEN.html>)。

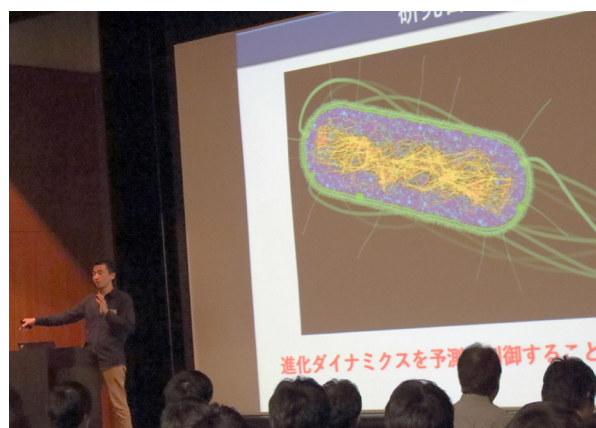
1. 講演

今回の微生物研究会では、「微生物の多様な生き様にせまる」をメインテーマとして、微生物が環境に適応して生きる生き様や微生物が他の生物と相互作用しながら生きる生き様にせまる研究に取り組まれている研究者の方々にご講演いただきました。

理化学研究所・東京大学の古澤力先生には「大腸菌の人工進化実験における表現型・遺伝子型の網羅的解析」というタイトルで、人工進化実験における解析を通して生物の進化ダイナミクスを予測するとともに制御する研究についてご紹介いただきました。

産業技術総合研究所の玉木秀幸先生には「未知微生物を‘培養’して深遠な生物機能を探る」と題し、環境中に存在する難培養微生物を培養する技術を開発し、培養することで明らかになった微生物の機能や産業応用への可能性についてご紹介いただきました。

東京工業大学の山田拓司先生には「ヒト腸内細菌の疾病関連性」と題し、ヒトの腸内細菌叢のオミクス解析を通してガンなどの疾患との関連性を明らかにする研究や関連する社会貢献活動についてご紹介いただきました。



理化学研究所古澤先生のご講演



産業技術総合研究所玉木先生のご講演



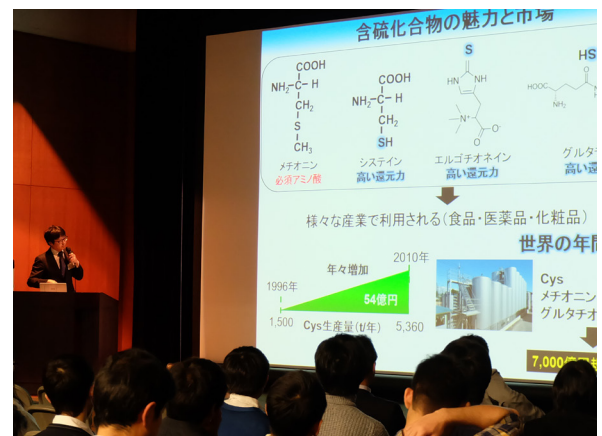
東京工業大学山田先生のご講演

同じく東京工業大学の山本直之先生には「乳酸菌による抗アレルギー作用」というタイトルで、乳酸菌の抗アレルギー作用についての基礎研究をご紹介いただくとともに、企業での実用化を見据えた研究について大学の基礎研究との違いを踏まえてご紹介いただきました。

筑波大学の天津巖生先生には「微生物が有する硫黄同化を起点とした新しい評価法（サルファーインデックス）：目からうろこの新発見」と題し、備生物の硫黄代謝研究や先生が開発された硫黄代謝関連物質のメタボロミクス技術を通して微生物のみならずアルコール飲料や野菜などの食品の機能評価を行う研究についてご紹介いただきました。



東京工業大学山本先生のご講演



筑波大学天津先生のご講演

2. ポスター発表

会場の都合上、研究室あたりの発表件数を制限せざるを得ない状況ではありましたが、85件の学生・若手研究者によるポスター発表を行いました。微生物の基礎研究のみならず応用を見据えた研究まで多岐にわたる発表があり、セッションの時間を通して参加者による活発な議論が行われました。



ポスター発表の様子

3. 最後に

今回の微生物研究会には271名(一般83名、学生188名)の方々にご参加いただきました。そして、講演内容に関する質疑応答やポスター発表における議論も活発に行われ、微生物研究のさらなる発展が確信できる有意義な会となりました。次回(第17回)は、法政大学で開催される予定です。

4. 謝辞

ご講演いただきました先生方、研究会の開催・運営に協力くださった先生方・学生の皆様に御礼申し上げます。そして、本研究会の開催をご支援くださいました農芸化学会関東支部に厚く御礼申し上げます。